



岐阜テコンドークラブ
本部道場
【所在地】岐阜市西荘3-5-63
【間】090-9172-2541

山田選手が小学2年生から通う岐阜テコンドークラブ。型の練習では体の動きに合わせて、笛のように鋭い呼吸音を発します。最近是小さな子どもたちを指導するとき

巻頭特集

国際大会でも活躍する
テコンドー 山田聖琉選手

いざ、世界の頂へ!

2019年にウズベキスタンで開催されたテコンドーの国際大会「STAR OF EAST」に出場し、少年マイクロ級男子の「組手(マツギ)」で優勝するなど、テコンドー界で注目を集める地元高校生、山田聖琉選手。練習を見学すべく、岐阜市にある道場を訪ねました。

山田聖琉選手
2004年生まれの高橋1年生。身長168cm、体重43kgと細身ながら、技を披露する姿からは凛とした力強さが漂います

華麗な足技に象徴される
テコンドーの世界

飛び蹴りや回転しながらの連続蹴りといった多彩な足技が特徴で、足のボクシングとも評されるテコンドー。朝鮮半島に古くから伝わる武道に、日本の空手が融合するかたちで誕生したといわれており、現在では世界各国でさまざまな国際大会が開催されています。そんなテコンドーの世界で、近年めきめきと頭角を現しているのが、日本ITFテコンドー協会の岐阜本部道場「岐阜テコンドークラブ」に所属する山田聖琉選手。羽島市で生まれ育ち、2020年春から県立羽島北高等学校に進学した高校1年生の若手選手です。

テコンドーの国際競技連盟はITF(国際テコンドー連盟)とWTF(世界テコンドー連盟)という、大きく2系統に分かれています。「この2つの系統は、基本的な型やルールなど、すべてが違います」と話すのは、日

本ITFテコンドー協会の理事長で、国際師範の資格を持つ岸玄二先生。ITFの個人競技は4つの種目に分かれていると教えてくれました。花形競技は決められた動作の正確さや力強さ、バランス、リズムなどを競う「型(トウル)」と、選手同士で戦って勝敗を競う「組手(マツギ)」。ほかに技の破壊力と正確性を試される「威力(パワーブレイキング)」、蹴りの打点の高さを競う「特技(スペシャルテクニック)」があります。

国際大会に出場を果たして
組手と型で1位と2位に輝く

山田選手がテコンドーを始めたのは小学2年生のとき。岐阜テコンドークラブの体験教室に参加して、ミットを蹴る楽しさを味わった経験がきっかけでした。

最初の大会は、入会した年の新人戦。当時はまだ体が小さかったこともあって負けてしまったものの、そのときの悔しさは大きな発奮材料になりました。母親の久美子さんは、「食が細くて、あまり外で活発に遊ぶことはしませんでした。でもすぐく負けず嫌いな性格で、テコンドーを始めた頃は大会で負けるとよく泣いていたのを覚えています」と振り返ります。その後はクラブで行なう週3回の練習に加え、自宅の一室にマットを敷き、毎日のように自主トレーニング。そうした努力が実を結び、6年生で出場した「全日本ジュニアテコンドー選手権大会」男子ジュニア型の部で、見事に優勝を果たします。

次の大会が始まる時に備え
万全の準備を整えていきたい

2020年春から高校生になり、クラブでもジュニアハイから一般クラスに進級した山田選手。身長や体重、技術など、すべての面において周りのレベルが上がったため、これまで以上の精進を続けていきたいと意気込みます。

「彼の優れている点は、より素早く体を動かす際に欠かせない呼吸法や、腕の振りの早さと止め方。クラブの指導方針としても、そうした良い部分を積極的に伸ばしてあげたい」と岸先生。「とくに型は、おそらく国際大会でもメダルを狙えるレベル。ゆくゆくは世界でもトップの位置につける選手だと思っていますので、今後もさまざまな国際大会に出場を重ね、もつと

進歩を重ねていきました。同じ年には、オーストラリアで開催された「ITFワールドカップ」にも出場し、初めての国際大会を経験。会場の雰囲気の違いを感じ、世界には強い選



母 山田久美子さん

栄養バランスの取れた食事で活躍をサポート。「幅広い年齢の方と練習し、大人ともきちんとコミュニケーションがとれるようになりたい。いろんな面で我慢強さも身についたと思います」と、山田選手の成長を感じています



道場長 岸玄二先生

日本ITFテコンドー協会理事長、日本代表ヘッドコーチ。選手として世界大会への出場経験も多数。「人間の持ちうる力を最大限に引き出す武道」とテコンドーの魅力を語ります



左) 自宅でつろぐ山田選手。チームスポーツもやってみたく、高校生になってから野球も始めたとか
中央) 初めて黒帯を取得した中学1年生の頃
右) テコンドーを始めてから、体の強い元氣な子になったそうです

恩師からのエールに、山田選手は感謝の言葉を口にします。「ダイナミックな足技など、テコンドーの魅力や楽しさにのめりこめたのも、クラブの先生方のおかげです。立ち方や体重の置き方といった最も大切な基礎を、最初に叩き込んでくれた岸先生をはじめ、目標となる大勢の先生方に恵まれている環境が、自分にとってすごく大切なんです」。今後は次の全日本選手権や国際大会の開催に備え、万全の準備を整えていくことが目標です。新型コロナウイルス感染症の影響で、まだ具体的な開催は決定されていないものの、「いざ試合が始まったときに、いつでも100%の力が発揮できるように、今を貴重な準備期間にしたい」と話してくれました。高校1年生にして、私たちのまから世界へ大きく羽ばたいていこうとしている山田聖琉選手。どのような活躍を見せてくれるのか、今後の成長から目が離せません。